

ナミルリモンハナバチ

Thyreus decorus (Smith)
ハチ目・ミツバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

嶺北地方では何か所かで以前の生息場所が失われていた。また、嶺南地方でも以前記録のあった生息地を確認できなかった。青森県、栃木県、京都府、兵庫県で減少が報告されており、本県でも以前より数は少なく、局所分布を示すことから、注視が必要と判断した。

種の特徴

体長メス 13～14 mm。体は黒色。翅は基部を除き強く褐色に曇る。体には青緑色のよく分枝した毛から成る斑紋ないし横帯を有する。成虫は秋季に出現し、*Amegilla* 属に寄生する。

分布

県内では大野、福井、鯖江、小浜市と、南越前、美浜、若狭町で記録があり、今回、大野市持籠谷、勝山市保田、福井市足羽山、永平寺町福平峠、越前町城山等で確認された。

生息を脅かす要因

里山の開発による消失や管理放棄による環境変化（スギの人工林の生長、林床の藪化に伴い花粉を提供できる植物が貧弱化する等）が本種の生存に影響を与える。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、羽田（2005a）、羽田ら（2001a）、羽田ら（2005）、環境省（2015）、室田ら（2008a）、室田ら（2008b）、室田ら（2009）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○		○	○		○				○	○	○	○

クロマルハナバチ

Bombus ignitus Smith
ハチ目・ミツバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では広く確認されている。千葉県、東京都、三重県、滋賀県、京都府で減少が報告されており、本県でも注視が必要であると判断した。

種の特徴

体長は女王 21.0～23.0 mm、働きバチ 12.4～18.8 mm、オス 15.6～18.8 mm。女王と働きバチでは全身が黒色毛で覆われ、腹部末端に橙褐色の毛がある。女王は4～6月、8～9月に活動し、働き蜂は5月下旬～9月、オスは8～9月に出現する。土の中に営巣する。

分布

県内では三里浜のほか大野市、勝山市、福井市、越前町、池田町、敦賀市で記録があった。今回、あわら市北潟、永平寺町福平峠、高浜町山中等複数地点で新たに確認された。

生息を脅かす要因

宅地開発や土地造成、道路建設等が本種の生息に影響を与える。日本産マルハナバチの中では人工飼育が容易であり、農業用の受粉昆虫としての応用も期待されるが、家畜化した場合には在来個体群との交配による遺伝子汚染が心配される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、羽田（2002）、羽田ら（2005）、環境省（2015）、木野田ら（2013）、室田ら（2008a）、室田ら（2008b）、室田ら（2009）、野坂・黒川（2002）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○			○	○		○	○	○		○	○	○	○	○

ホシガガンボモドキ

Bittacus sinensis Walker
シリアゲムシ目・ガガンボモドキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内では大野市鳩ヶ湯と武生市吉野村に古い記録があるのみである。今回の調査で大野市仏原から見つかったが、記録が非常に少なく、稀な種と思われる。

種の特徴

開張 50mm 前後になる大型のガガンボモドキ。全身黄褐色で、翅には縦脈の分岐点付近に小さな暗褐色の斑紋をもつ。成虫は5～6月に出現し、小さな昆虫等を餌とする。

分布

本州、九州に分布し、平地の河畔林や落葉広葉樹林でみられる。県内では、山地のミスナラ林から記録がある。

生息を脅かす要因

開発に伴う雑木林の伐採等。

参考文献 環境省（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○				○	